

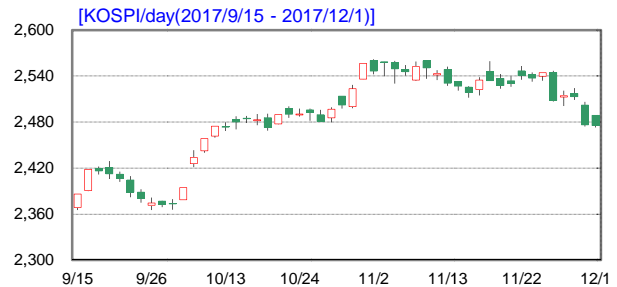


【韓国】 総合指数は週間で2.7%安と反落、半導体需要の不透明感を嫌気

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.7%安と反落。米国市場でのハイテク株安を受けた売りがサムスン電子やSKハイニックスなどの大型半導体株に波及し、指数を押し下げた。12月1日の終値は2475.41ポイントと、10月19日以来ほぼ1カ月半ぶりの安値。米国で29日にフィラデルフィア半導体株指数(SOX)とナスダック総合株価指数が大きく下げたことが嫌気された。ほかの大型株では、週ベースでLG化学やサムスン生命保険が下落した半面、現代自動車、モービス、ポスコ、ネイバーなどが上昇した。また、北朝鮮の新型大陸間弾道ミサイル(ICBM)発射や、韓国銀行(中央銀行)による6年5カ月ぶりの利上げが相場へ与えた影響は限定的だった。今週はハイテク株に押し目買いが入れば、節目の2500ポイントを回復か。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は2.8%安と反落、今週はロシアゲート疑惑の飛び火に警戒感

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で2.8%安と反落。原油価格の弱含みを受けて下落基調が続いた。週明け27日は一時、プラス圏に浮上したがマイナスで終了し、その後は30日まで4日続落となった。30日開催のOPEC総会では協調減産合意が来年末まで延長されたが、総会前まではロシアが合意しないとの観測で原油相場が弱含み、RTS 指数は売り優勢。1日は、前日のOPEC加盟国と非加盟国との協調減産合意で、リビアとナイジェリアの原油生産量に上限が設定されたことでブレント原油価格が取引時間中に63ドル台後半まで反発。これを受け、一時的に前週安値を下回っていた指数は取引後半に底入れし、前日比0.2%高の1133.33ドルと5日ぶりに反発した。今週は米国のロシアゲート疑惑の飛び火に対する懸念でもみ合いか。

▼指数チャート



【ベトナム】 VN 指数は週間で2.6%高と9週続伸、一服する場面は押し目買いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は2.6%高と9週続伸。主力銘柄の個別材料を好感した買いが集まり、指数を押し上げた。11月の鉱工業生産が前年比17.2%増と前月の17.0%から加速したことも支援材料。指数は週明けにマイナスで寄り付いた後、28日までみ合ったが、週中から買い優勢となった1日は前日に950ポイントを割り込んで終えた反動で買い戻され、寄り付きから950ポイントを回復。前日比1.1%高の960.33ポイントの高値引けで取引を終了した。960ポイント超えは2007年12月上旬以来ほぼ10年ぶり。11月末時点では年初来で42.9%高。個別では製糖会社を買収した時価総額1位のビナムミルクが6.0%高、売出し最低入札価格を超えたサイゴンビールが3.5%高と指数をけん引した。今週は一服する場面があれば、押し目買いか。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.9%安、今週は 6000 ポイント回復に期待

ジャカルタ総合指数は4日間の取引で1.9%安と3週ぶりに反落。11月月間では0.9%安。先週は週末の下落が響いた。週初の27日は上海総合指数が3カ月ぶりの安値を付けた影響で反落。その後は29日まで小幅なレンジでもみ合ったが、30日は大引け間際に外国人投資家によるアストラ・インターナショナルやバンク・セントラル・アジアなど大型優良株の売りが加速し、指数は前日比1.8%下落して週の取引を終えた。今週は4日発表の11月の日経製造業PMIと、同月のCPIに対する市場の反応が注目される。前週末に終値で約5週間ぶりの安値に落ち込んだ指数が節目の6000ポイントを回復できるかが焦点。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.2%高、1日に2年6カ月ぶりの高値を更新

ストレーツタイムズ指数は週間で0.2%高と続伸。11月月間では1.8%高。先週は週末の反発が指数を支えた。週初の27日は、中国政府の融資規制強化を受けて資金が債券市場に流れた影響で中国の株価が下落したことに連動して指数は反落。28日は小幅に反発したものの、その後は軟調で30日まで続落した。一方、1日は金融株を中心に買い戻しが入り、終値で約2年6カ月ぶりの高値を更新した。今週は4日の取引終了後に発表される11月の製造業PMIが09年12月以来の最高値に到達した前月を上回るかが焦点。外部要因では前週末に6営業日ぶりに反落したNYダウの動向が株式相場を左右しそうだ。

▼指数チャート

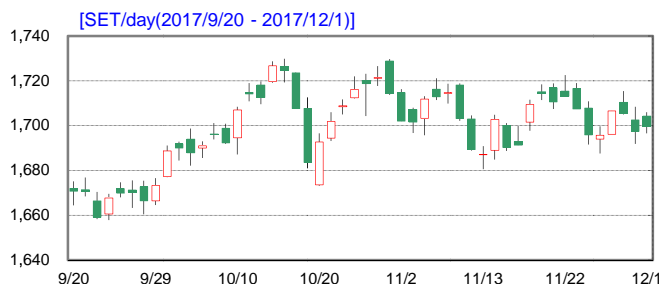


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.2%高、11月のCPI上昇率が2月以来の高水準に到達

SET 指数は週間で0.2%高と反発。11月月間では1.4%安。先週は1700ポイントを挟んでもみ合った。27日は前週末とほぼ横ばいでスタート。28日は中国の株式市場が反発した流れを受け、終値で3営業日ぶりに1700ポイントを回復した。ただ、29日に小幅反落すると、30日は10月の鉱工業生産が前年同月比0.5%増と市場予想から下振れしたことが嫌気されて続落。一方、1日は11月のCPI上昇率が前年同月比1.0%と2月以来の高水準に達したことで3日ぶりに反発して引けた。今週は国内の経済指標発表が少なく、原油価格の動向など外部要因に左右される展開か。5日は国王誕生日（父の日）の祝日で休場。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.04%高、今週は10月の貿易統計と鉱工業生産発表

クアラルンプール総合指数は4日間の取引で0.04%高と横ばい。11月月間では1.7%安。先週は小幅なレンジでの一進一退が続いた。週初の27日は3営業日ぶりに反発したが、28日は原油価格の下落が嫌気されて、指数は約9カ月ぶりの安値を更新。30日は同日に子会社2社が新規上場した複合企業のサイム・ダービー株が急騰したものの、取引終了間際にゲンティンなどの大型株が売り込まれ反落して引けた。今週は6日に10月の貿易統計が発表される予定で、輸出入ともに前年同月比の伸び率が9月の実績を上回るとの見方が優勢。外部要因では中国の11月の財新製造業PMIや貿易統計が意識されそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。